

湯山地区タウンミーティング

平成24年10月26日（金曜）

【市長】 皆さんこんばんは、今日は平日の夜間でございます、お仕事のある方もいらっしゃるかと思えますけど、お仕事でお疲れのところこのようにたくさんの皆さんにお集まりいただきありがとうございます。また、このタウンミーティングの開催に当たりましては、湯山地区広報委員会の曾根会長さんをはじめ、役員の皆様にご協力いただきましてありがとうございます。さて、このタウンミーティングは、私が市長の立場をいただいてから始めさせていただいております。どっちが楽かといいますと、市役所職員が市役所で待ってるほうが楽であります。でも、果たしてそれでいいのだろうか、41の地区ごとにタウンミーティングを開催させていただこう、我々のほうが地区のほうに出て行って地区の皆さんの声を聞かせていただくということで始めさせていただきました。ひとつしんどいことをやってみよう。もうひとつしんどいことは、いわゆるガス抜きみたいな形でお話を聞いているふりをする、そんな形でのタウンミーティング、例えば政府がやったタウンミーティングですとか、ほかにもあるようですけど、松山版のタウンミーティングは、やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないというタウンミーティングでございます。ここで答えられることはお答えをする、ここですぐにお答えできないものもございます。例えば国と絡むもの、県と絡むもの、また、財政的な問題があるもの、そういうものはいったん持ち帰らせていただいて、1カ月をめぐり松山市としての回答をさせていただきます。なぜ1カ月かという、皆さんから質問をいただいたものを持ち帰らせていただいて、国に問い合わせる、県に問い合わせる、国や県から答えが返ってくる、それで、松山市の方針を決めて各地区にお返しするという形になりますので、1カ月をめぐりさせていただきます。やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないというのが松山版のタウンミーティングの特徴です。今日で、松山市41地区中の33地区目ということになります。さて、松山市の仕事というのは本当に幅広い分野にまたがります。環境、交通、給食、上下水道の分野であったり本当に様々な分野にわたりますけど、各担当の職員も来ておりますので、自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミー

ティングを統括しております。普段の仕事といたしましては、窓口における行政サービス、22支所7出張所、3つのサービスセンター、パスポートセンターという窓口業務やっております。そのほか、男女共同参画、住民主体の地域におけるまちづくりそういった幅広い仕事やっております。よろしくお願いします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路、公園の整備、維持管理を行っております。よろしくお願いします。

【環境政策課長】 皆さんこんばんは、環境政策課長の太田と申します。環境部ではごみ処理の問題、地球温暖化対策、川の水とか空気の環境保全、そういう仕事をしております。今日はどうぞよろしくお願いします。

【保健福祉政策課長】 皆さんこんばんは、保健福祉政策課の津野と申します。保健福祉部では保険年金関係、介護保険関係、高齢者の関係、保健所全般を扱っております。今日はよろしくお願いします。

【産業政策課長】 皆さんこんばんは、産業経済部の太田と申します。産業経済部におきましては、地域経済の活性化、観光振興、農林水産にかかわる業務を担当させていただいております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、生涯学習政策課長の前田と申します。教育委員会を所管しております。未来を担う人材育成、生涯学習の推進等幅広い教育委員会の仕事をさせていただいております。今日はよろしくお願いします。

【市長】 という今日は6名でございます。これから90分間ということになりますけど、タウンミーティングは、テーマ1、テーマ2、テーマ3と分かれておりまして、テーマ1「湯山地区の魅力について」となっております。なぜ、魅力から話していただくかということ、先ほど、松山市は41地区に分かれると申し上げました、それぞれの地区ごとに歴史があって特徴があります。その地区にはそれぞれ魅力があるわけですけど、その魅力が一番知っているのは、地元に住む皆さんが一番魅力のことおわかりだと思います。ここで地域の魅力を活かしたまちづくりができると、それぞれ41の地区はそれぞれの魅力を活かすことができ、その41の集合体である松山市はより魅力のあるところとなります。でも、行政が主体になってまちづくりをしてしまうと、いわば金太郎あめのような地区が41できてしまう、その41の集合体である松山市はつまらないまちになってしまいます。ですので、皆さんで地区の魅力について語っていただいて、共通認識を

持っていただいたら、そのよさを活かしたまちづくりを各地区でしていただいたらという思いであります。また、当然、問題点とかお困りの点あると思いますので、これを聞かせていただければと思っております。90分という時間ですけど、肩ひじ張っていると疲れてしまいますので、あまり肩ひじ張らない、ざっくばらんな議論、前向きな議論をできればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【男性】 湯山地区は松山市の北東に位置し、東は日浦地区、西は道後地区に接する東西に細長い地域で、中央を清流石手川が流れ、その石手川がはぐくんだ豊かな自然と緑に包まれた静かな環境のまちです。近年、大規模開発等により人口が増加して、市街地への利便性もよく、ベッドタウンとして発展しています。まず最初にわが国でも数少ない水力発電所として建設された湯山発電所について説明します。この発電所は明治36年、四国初の水力発電所として、その後石手川上流域に第2、第3発電所が建設され長年にわたり電気を供給してきましたが、設備の老朽化等により昭和32年に廃止され、現在の場所に新たに建設されました。平成6年にはその当時使用されていた水車、発電機を県総合科学博物館へ寄贈し展示しております。次に、湯山は地名の通り湯の山であり、湯山七湯とも呼ばれ、石手川に沿って7つの源泉、湯の元、湧ヶ淵、末、水口、塚谷、柳、第一発電所のところがあります。源泉温度が低いことから、湯の元、末、水口鉱泉以外は利用されていませんが、そのうち、全道後の湯量に匹敵し毎分2000リットルの湧出量があり、ラドン、フッ素を含むアルカリ単純泉の湧ヶ淵鉱泉は、奥道後温泉として開発されています。次に、湯山はタケノコ発祥の地としても有名であり、約170年前、宮本作右衛門が伊勢神宮参宮の折、京都から二本の種竹を持ち帰り植えたのが最初といわれ、立地条件にも恵まれ地場産業として発展しています。昭和61年には、湯山筍の普及に貢献した宮本作右衛門の功績を顕彰するために、宿野町の竹林から出てきた自然石を利用して、みんなでつくる住みよい湯山地区委員会の10周年記念事業として記念碑が建立され、毎年4月下旬には宮本作右衛門の遺徳をしのぶために筍掘り大会が開催されています。そのほかとして、奥道後玉川県立自然公園に指定された自然と清浄な空気に包まれた湧ヶ淵自然植物公園、日浦地区のお盆の伝統行事川施餓鬼で知られる奥之城、その上流には松山市民の水がめとして治水、かんがい水道の多目的の石手川ダムや溪谷などの景勝地があります。以上で説明を終わります。

【市長】 まず魅力について皆さんに再認識していただこうと、まず、魅力について語っていただきましたけども、逆に私から聞きたいんですが、「筍掘り大会」って、地区外の人とかも結構来られてるんですかね。どんな状況なんですかね。

【男性】 地区内。これは公民館が青少年育成事業として、親子で地域の特産物を体験させようという趣旨のもとに取り組んでおります。非常に珍しい、湯山独特の特産物を活かした事業ではないかと思っております。今の子どもたちはくわのどこを持つじゃのタケノコがどういう生え方をするかという学習の場としても提供できるし、また、親子の触れ合いもできるし、地域の老人の方のご指導を受けながら交流もできるので非常に好評で、毎年約150人の子どもたちが来て、山へ行って自然の中でそういう体験をさせております。そういう事業に取り組んでおります。

【市長】 地区の皆さんは地区の外からお客さんを引っ張ってこようとか、そこまでは思っていない。どうですか。

【男性】 そこまでやるほどの機材とか、急傾斜地だから事故も考慮すればある程度平らなところとか、条件がいい、交通の便がいいところとなると、ある程度限定をされる。日浦公民館が由良公民館と交流をやるときは、由良公民館の子どもたちが日浦地区へ来てタケノコを掘るということは、公民館同士の交流でやるというのは聞いております。

【市長】 湯山に来るのに何にも知識なしで来るのも失礼だなと思ったので、ちょっと勉強させていただいて、宮本作右衛門さん知らなかったんです。竹というものは古来からあってと思ってたんですけど、宮本作右衛門さんが1810年ごろ、今から200年前くらいに京都から持ち帰ったと。これ全然知らなかったんですよ、宮本作右衛門さん素晴らしいな、こういうタケノコの歴史がある。41地区どこでもタケノコの歴史があるわけではないので、タケノコのまち湯山みたいな感じで、実際どういう状況でやってるか知らなかったものですから、もしできるんだったらタケノコでまちおこし、湯山を知っていただく、例えばタケノコご飯を出すとか、タケノコの入ったすまし汁を出すとか、タケノコをわさび醤油で刺身にして食べさすとか、タケノコの木の芽和えとか出したら松山で採れている地産地消のタケノコいうてお客さんがやって来るかなと思ったので、そういう場所の問題とかあるんですね、なるほど。

【男性】　　うちは、タケノコの出荷組合があるわけですけど、年に1回奥道後の遊園地の中でJ A松山市の部会が主催でタケノコ祭を催すんですが、そのときに校区の住民の方にチラシの配布とか、J A松山市から呼びかけで、例年5月のゴールデンウィーク前に奥道後園内でタケノコ祭を開催しています。非常においしいタケノコが提供を受けるということで松山市内からも毎年大勢が押し寄せております。

【市長】　　各地区に行きますと、「市長さん、この地区にもっと人来てほしいんですけど、知ってほしいんですけどどうしたらええやろか」とよく言われるもんですから、お話をさせていただいた次第です。宮本作右衛門さんのこととか、タケノコの歴史とかあまり知らなかったんで、勉強させていただきました。

【男性】　　湯山地区の果樹農家が減ってます。おそらく10年後には10人切るかも知れないという状況の中で、ミカン山ばかりで農業人口が減って廃園が増えてます。そこで、今問題になっているのが鳥獣被害、イノシシ、猿の被害が深刻になってきてまして、そのあたりの対策をもっと考えていただければと思うんですが。

【市長】　　まず、私から、有害鳥獣、イノシシ、猿、シカに対する対策とっているかお話させていただきます。まず1つ目がイノシシ撃った場合の報償金を出しております。イノシシに対しては2万円、猿に対しては3万円。2つ目には畑、田んぼ、ミカン山襲われないように柵をするんですけど、個人で柵をする場合、また、共同でした場合に助成金を出す。3つ目に狩猟免許持った方が高齢化して撃つ人が少ないというのでは困りますので、新規に狩猟免許を取る方に、初心者講習の費用、手数料の助成をしております。イノシシのとり頭数は増えてきております。22年度が524頭、23年度は763頭、1年で239頭数は増えたというところですけど、難しいのはイノシシが1回に何頭も産むものですから追いかけてっこという形になっています。今、いかなることもしたいということから、こういうものも出ておりまして、「亥旦停止」というものですけど、物はどういうものかというところとカプサイシン唐辛子の成分をしみ込ませたものをつるしておく。これあまり高くないんです、イノシシ用が20個7,980円と、これは2、3カ月は効果がある。嫌な成分を出すのでイノシシが寄ってこない。少なくとも2、3カ月は効果があるということですので、ミカン畑につるというのを他都市で見

つけましたので、近日中に試験的にやってみることにしております。このようにいかなることでも、ちょっとでも効果があるんだったらやってみたい、県、農協さん、猟友会さんとも協力をしながら我々も気持ちわかります。せっかく収穫迎えたところにイノシシに食べられてしまう、これまでの努力が無駄になってしまいますので、これからも有効な手を打っていきたいと思いますので、よろしく願いします。

【男性】 今、市長さんが言われたことは実はもう我々で手を打ってまして、自分が狩猟免許取ったり猟友会入ったりしてるんですけど、要するに採る量よりも、かなり増えてきてるんです、実際、この1週間で7頭捕獲しました。そういうレベル、猟友会だけでは手に負えないレベルに来てるんです。まして廃園が増えてるんで、市を挙げて全体で動いてもらわないと、例えば湯山地区で重点的に捕獲しましたと言っても、次の日には伊台地区に行っている、一晩に何キロも動くもんですから、結局堂々めぐりの状況になってますから、その辺を全体挙げてやっていただきたい。

【産業政策課長】 湯山地区に限らず、本市の中山間地域におきましては有害鳥獣による農作物被害は増加している状況でございます。何とか手を打つということではいろいろな補助制度創設させていただいているわけですが、他市の状況調べていますけれど、今のところ有効策というのは見つかっておりませんので、有効策が見つかり次第、ご報告、また、ホームページに載せるなど対応していきたいと思っております。

【市長】 本当に皆さんがお困りであるというのよく伝わっておりますので、これでよしというわけではありませぬので、また、できることどんどん打っていきましょうと思います。私が今個人的に考えてますのが、例えば、この日は一斉に狩猟の日にするとか、例えば、イノシシ対策課みたいなのをつくってしまうとか、松山市は行政改革を進めてまして職員が非常に少ない、公務員は仕事しないイメージがあったと思うんですけど、一人当たりの仕事を増やすということで今やっております。41中核市の中で消防職員を除くと2番目に少ない人数でやっておりますので、イノシシ対策課をつくるとなるとどこかから持ってこなければいかなるので、その辺が悩ましいところですけど、例えばイノシシ対策課をつくるかとか、職員が狩猟免許を取ってやるとかいろいろ考えているところなので、これでよし

とは考えてませんので、また、打ち出していきたいと思います。

【男性】 要望したい点について3つほどお願いしたいんですが、まつやまブランド農産物生産支援事業を今やられてると思うんですけど、今年度で終了となっておりますんですけど、来年度以降ぜひ継続をお願いできたらと思います。次に世界情勢、投機マネーなんかの影響で物資の高騰があり、農業資材も例外ではないんですが、これらの補助、支援はできないのか。次に農産物、まつやまブランドが中心になろうかと思うんですけど、これらの宣伝、アピールを全国的に、また海外に向けてできないだろうかということです。

【産業政策課長】 本市は御存じのように有数のかんきつ類の産出地で、農業産出額のおよそ半分は温州みかん、伊予柑を主力としたかんきつ類となっております。しかしながら近年、主要かんきつである温州みかん、伊予柑価格の低迷、消費者ニーズの多様化、産地間競争の激化によりまして、かんきつ農家の経営は非常に厳しいものになっております。こうした中で、消費者に好まれる有望品種、紅まどんな、せとか、カラマンダリンなど4品目あるわけですけど、販売面にも着手をして事業展開をしております。生産面では農業所得の向上のために、消費者や市場ニーズに沿った高収益の見込まれる優良中晩柑類への転換や有望品種の安定生産に必要な防風ネット、ハウス、そういったものにも支援しているところでございます。ご質問にもありましたように、今後生産面ではなくて担い手不足の農地保全、生産面や流通面に総合的に支援し、持続可能な力強い農業を実現する必要があると考えておりますので、まつやまブランド農産物生産支援事業について、来年度以降も、単なる事業継続ではなく総合的な農業振興の取り組みの中で、ブランド認定品種の位置づけを踏まえて検討していきたいと考えております。

【市長】 伊予柑とか温州みかん、皆さんなじみがあったと思うんですけど、これは値段が安くなってきました、とはいえやはり主力です。今75パーセントが伊予柑と温州みかん、25パーセントがいわゆる有望品種、松山でいうと紅まどんな、せとか、カラマンダリンこういうのを有望品種といいますけど、今75対25というところですよ。愛媛県がデータ出してまして、一番農家の方が所得上げられる配分が伊予柑、みかんが65パーセント、有望品種が35パーセントになれば、より収益が上がるだろうというデータ出ておりますので、せとか、紅まどんな、カラマンダリンというのはあと10パーセント伸ばすことができる、伸ば

したいと思っております。これは伸ばしていく方向になると思います。

【産業政策課長】 原油、肥料、飼料等の原材料が高騰した場合には、農業資材等の高騰が起これ、農家経営が非常に厳しい状況になってくると考えております。平成20年の原油高騰の際には、国、県におきまして緊急的支援事業を行いました、本市におきましても市内JA、認定農業者等に事業要望調査を実施し、市単独で、生産コスト高騰緊急対策マニュアルを作成して、農業指導センターに相談窓口を設置し支援をさせていただいております。今後、緊急に高騰することも予想されますので、そういった場合には国・県の動向を注視しながら対応していきたいと思っております。

【市長】 最後に言われた農産物のアピールをしてくれということですが、これはますますやっています。私が伊予柑、紅まどんな、せとか、カラマンダリ持って、東京の大田市場に行きます。大田市場、青果、野菜、果物の取り扱いで日本一を誇ります。相手競り人さんたち。全国から北海道から沖縄までいろんな野菜、果物が持ち込まれます。当然愛媛のライバルである静岡なんかも来ているわけです。私就任してから5回、6回行きましたけど、紅まどんな、せとか、カラマンダリ持っていきます。目的は生産者の皆さんの苦労や工夫を知ってもらっていい値をつけてもらうことです、納得していい値段を付けてもらうこと。大田市場でどういう値段がつくかで、そこから広がっていくわけですから、いい値段をつけてもらうこと大事なことです。消費者の方にも納得して買ってもらうことが大事なんで、大田市場に行きます。大田市場に行くと競り人さんたち、若いときから野菜、果物をずっと見て商売してる方ですから目が肥えてるんですよ、試してくるんですこっちを。「市長さん、この果物は何と何の掛け合わせ」とか「施設園芸、路地」、ハウスでつくっているのか路地でつくっているのか試してくるんですよ。もう5、6回行ってますから、松山市長が持ってくるものは間違いのないというふうに思われてます。私自身が前の仕事で生産地に足を運んで苦労や工夫を覚えてもらうというの20年やってきました、それをどうアピールするかが私の持ち味ですので、大田市場では定評ができてまいりました。大田市場だけではなくて、どう売れるか、どれだけ多く売れるかが大事ですから、デパートでも販売をします。皆さん御存じの大きいデパートです。平成22年からおつき合いが始まっています、松山でお勤めになった方が千葉店に行かれまして、千葉店で松山

の物を扱いたいということで平成22年から千葉店での販売が始まりました。その方が23年には松戸店にも広げてもらって2店舗になった。そんなところで私が大田市場でトップセールスしよったらその方が市長さん上手ですね、新宿店で販売させてもらうようになりました。平成22年は1店舗やったんが3店舗になりました。そして今年は、そのグループの食品の総責任者に会わせてもらう、松山産もっと使ってください、そして会長さんにも会わせてもらう、松山産もっと使ってもらおうということで今年は7店舗で扱わせてもらうようになりました。いっぺんこういう商売のルートができれば、松山の農林生産物ブランド、海のもの、松山一寸そらまめとか野菜もありますけど、そういうものも扱ってもらえるようになりますので、「フットワークとネットワークでわくわくする仕事」と言ってるんですけど、フットワークとネットワーク活かしてどんどん松山の物アピールしていこうと思っています。これからもどんどんやります。

【男性】 素朴な質問させていただきます。私も道路の整備とかいろいろな面でお願いにもいかないかんのですが、必ず最初に聞くのは、松山市はお金がないんですと聞くんですけど、これ本当ですか。

【市長】 ニュースでよく聞かれると思いますが、国においては1,000兆円の借金を抱えているといわれています。国からは国庫支出金とか地方交付税交付金といった形でお金が回ってきます。でも、皆さん考えてみてください、国が1000兆円の借金を抱えてるんですから、地方に対して回ってくるお金がこれから膨らむとは考えにくいです。ここまで来るのに誰か止める人はいなかったのかと思うくらいあきれるような大きな数字です。1億人という人口で割ればどれだけ一人頭抱えているのかというくらいすごい額です。今、松山市歳出の中で一番大きなウェイトを占めるのが40パーセントを占める民生費です。いわゆる福祉にかかるお金です。これが1年間で松山市だけで50億増えたんです。この中には生活保護費も含まれます。この生活保護費も1年間で松山市だけで、決算ベースで15億円増えたんです。ものすごい額ですよ。最初に申し上げたとおり国から地方に回ってくるお金がこれから増えるとは考えにくい、決まった中でやらないといけない。その中で、民生費、福祉にかかるお金が50億増えたら、どこかで50億絞らないと財政のバランスが悪くなりますよね、例えば生活保護費が15億円増えたら15億円どこかで絞らないと財政のバランスは悪くなります。

それをずっと続けたらどんどん下り坂。こうしてタウンミーティングを重ねさせていただいて、皆さんから「こうしてほしい」、要望事項出ます。「こうしてほしい、あれつくってほしい、これつくってほしい」。例えば戦後の日本、高度経済成長の時代だったらよかったです。どんどん税収増えていく、皆さんの給料増えていく、だから箱物もいろいろつくれた。でも今そんな時代じゃないですよ、国において1000兆円の借金抱えているような状況です。ですから、皆さんから要望いただいて、もし市長の人気取りをしようと思ったら、「わかりました、あれもやりましょう、これもやりましょう」、各地区41地区行くごとに、「あれやりましょう、これやりましょう、それもやりましょう」と人気取りでやったら、一時は人気取りのためにいいかもしれないけれど、それは将来の子どもや孫にツケを残すことにほかならないんです。だからと言って、いかないのではない。皆さんから声を聞かせていただいて、限られた予算の中で今何をすべきか、その優先順位をつけさせていただく。そのために、こうやってタウンミーティングを重ねさせていただいております。政策判断を誤らないために、実際にどこかで50億増えたのならば、どこかで50億絞らなければならない。15億円増えたならば、どこかで15億円絞らなければならない。将来の子どもや孫にツケを残すことはできないという思いで進めております。これは松山市だけが苦しいというわけではありません。中では松山はまだいい状況です。今日、記者会見で今年の上半期の財政の状況を発表しましたが、以前に比べると借金減ってきています。計画的にやっていますので。ですので、たちまち松山市が転覆をするということはありません。気をつけながら財政やっていきます。けれども、気を緩めているとどんどん下り坂になってしまう、将来の子どもや孫にツケを残してしまうというのは言えると思います。これはどこの自治体もそうです。これ言うともっと手が挙がりにくくなるんです。皆さんが気を使って「これ言うたら悪いやろう」と思いだすんです。それは違うんです。皆さんから「こうしてほしい、ああしてほしい」と言っていたかかないと、声の把握ができませんので、あまり財政的なことは気にしないで、優先順位をつけていきますので、どうぞこれからも皆さん声を上げていただいたらと思います。

【男性】 市長さんがあまりお金のことは言わんようにしてくれということで。先ほど、湯山の魅力ということでご説明を受けたわけなんですけど、湯山中学校

の校歌の2番の中に湧ヶ淵という地名が入っています。これ湯山の中でもものすごく景色のよい景勝地が湧ヶ淵公園の河川敷にあるわけですけど、40年近く我々地域住民はもとより、松山市民は入れない状態になっているので、どういう役所との契約があるのか、よく調査していただいて、以前中村市長さんのときにも議会でも上がったと思うんです。そういう点があるので、湯山の子どもたち校歌いつも歌っておりますが、湧ヶ淵どこにあるのか、どういう名所があるのかを子どもたちは知らないし、この中でも60歳から上でなければ地元の住民の中でも湧ヶ淵を実際に見た経験のある方はおそらくおらんのではないかと考えております。いま、湯山全体でみると、もともと生まれた方おそらく1割切っております。あと90パーセントはほかの地区から来た方です。そういう中で一番湯山の中でも名勝地とうたわれている湧ヶ淵が気軽にサイクリングコースになるとかどうして行政で対応ができないだろうかと、議会で上がったのに一向に進展する気配もないので、せっかくの機会で、市長さんもおみえですので、我々地域の住民としては、いち早く開放ができて、歩道なんかも整備していただいて気軽に散策ができる、また、その近くには温泉の源泉が出ております、先ほど言われました源泉の1つが今もおそらく出ていると思います。そういう点もあるので、地域の1つの、市長さんがいつもマスコミで言われている地域の宝でございますので、十分に酌んでいただきまして、できれば開放のほうに進めていただければと思います。

【市長】 湧ヶ淵、子どものころの記憶で西の金閣寺、金閣寺を模した建物があってその奥にあったところでしたっけ。

【男性】 そう、一番淵、二番淵、三番淵で淵があるんですが、岩を切り抜いて。そこに昔大蛇がおったとかいう伝説もあるような。湯山の中で小学校が昔はよく遠足のコースに、湯山の我々の地域にとっては非常に由緒ある、民話もあるような。

【市長】 あれ、がけ崩れで壊れたんが何年くらい前でしたっけ。

【男性】 上の山が地すべりを起こして、金閣寺の上のしかかって金閣寺が石手川に流れたんです。今現在は金閣寺はありません。土台が残っただけです。

【市長】 経緯わかるのは、都市政策課長。

【都市政策課長】 ご指摘の市有地湧ヶ淵の市民への開放についてですが、市有

地は現在、奥道後遊園地の一部として市が貸し付けを行っています。今現在、閉鎖中の施設の現状について調査を行いました。そこで、梅雨時期の大雨による被害や施設の老朽化等により、かなり危険な箇所が多く見られるところです。現在の状況で市民の皆様には開放するというのは困難であり、また、多額の費用も必要であると考えております。そこで、今後の対応策についてですが、奥道後玉川県立自然公園の区域内に立地していることも踏まえて、自然の風景地を保護しその利用促進が図られますよう、今年度末に使用貸借契約の期間が満了します、そういう機会をとらえて施設の安全性が確保されるかどうかを勘案しながら、今後の方向性について探ってまいりたいと考えております。

【市長】 今年度末に貸借契約が終わる。何年契約なんですか。

【市民部長】 そのあたり調べて。

【市長】 北条の鹿島が以前は一周できたんですけど、土砂の崩落の可能性があるということで、今半分しか行けない形になってるんですよ。それこそ、一周できたら水晶ヶ浜とか、石門とかそういう名所も見てもらえるんですけども、今、一周できないということで、代わりに周遊船を出す形にしてるんですが、もし行った場合に土砂崩れが起こったらというと、なかなか行政としては踏み出せない、安全という面ではあります。とはいえ、今年度中には貸借契約が終わるということですので、どういう利用ができるのかできないのかを把握させていただこうと思います。

【女性】 今、山崩れという話が出たのでお伺いしたいのですが、ここが何かのときの避難所になっております。すぐ近くの山が山崩れの危険があると防災マップではなっております。不安があったので、消防の支署に伺って誠意のあるお答えいただいたんです。それでも不安があつて、教えてくださいなんですけど、もし避難することが必要があつたときで崩れる危険性があつたときは、ここ避難所にする場合は松山市の職員がいらっしゃって、これは危険でここは無理だというときには放送を入れる、そういった形で対処をすると言ってくださいました。危険性があるのをわかっているけど、避難所の数をできるだけたくさん持つておかないといけないので、そういう形になってるという答えはいただいたのでそうかなとは思いますが、現実問題、山崩れがしそうだから放送入れたという形で間に合うんだろうかというのも不安だし、たくさん場所が必要だということもわ

かるんだけど、より安全な場所があるのだったら、そういう場所をお考えいただくことはできないかと思うんですが、また、ご検討いただくとありがたいと思います。

【市民部長】 皆さんご案内のとおり、松山防災マップの中に各地区の避難所が明示されております。災害というのはいろいろな態様がございます。風水害とか、地震とか、火事とか、いろいろな災害のときに放送はさせていただいて、どこに逃げるかということでやらせていただくんですけど、とりあえずは避難所がどこにあるかを理解していただくことが大切ですし、普段自主防災等の取り組みのときにそのあたりを想定されることが一番大事と思っております。消防からお答えあったと思いますけれど、防災行政無線で放送はさせていただくんですけども、これで全部できることはございませんので、消防とか、消防団が車で広報という形でやって、その災害の態様によって安全な避難所をお示しするようにしております。

【女性】 放送のあるところに行けばいい。

【市民部長】 そうですね、例えば地すべりが来て危ないといったときには、地すべりが来ない安全な避難所を放送なり、消防、消防団の車両によって広報をさせていただく、危なくないところに誘導するといったことは約束させていただきます。

【女性】 民生児童委員してるんですけど、大津市のいじめ自殺問題を受けてほかの市とかでいじめ防止条例みたいなのができてるんですけど、松山市はつくる予定はあるんでしょうか。

【市長】 いじめのことについては、これまでも松山市はいろいろと施策を打ってきています。大津市が問題だったのは、隠ぺい体質、隠す形になったのは残念なことであったと思っております。今日は教育委員会から前田課長が来ておりますので、松山市がどういういじめ対策やっているのかお示ししたいと思います。

【生涯学習政策課長】 いじめのことが広く言われているわけですが、松山市におきましては平成18年度にいじめ対策総合推進事業を開始しまして、平成24年度の取り組みとしましては、市の取り組み、各学校の取り組み、各学校の生徒指導主事の取り組み、その取り組みの中でやっておりまして、教育支援センター、学校教育課という2つの所管部署におきまして、「子どもから広がるいじめ0活動」

「いのちを守り育てる集い」、これらは学校教育課が所管した事業で「子どもから広がるいじめ0活動」というのは子どもリーダーズ事業といたしまして、各市内の学校の子どもさん、リーダーの方々が一堂に会して、いじめをテーマにしてどういふふうにしてやっていけばいいのかについて、子どもさん同士の話し合いとかもやっております。また、0ミーティングとか、いじめをなくすポスターの募集ということでやってるんですけども、リーダーズ事業の中で、今年7月26日に実施されたんですが、その中で子どもたちがどういふふうにしていじめをなくしていけばいいのか話し合いまして、4つの提案が出てまいりました。その4つの提案は、いじめをなくすためのCMとか、劇づくりを行う、いじめ0ミーティングで行ったことを各学校別にみんなでやっていく、人権作文を書いて発表する、教職員と何でも相談できる交換ノートをつくっていく、こういうふうにご子どもさん自身が自主的に考え方を取り入れた活動を展開しております。また、PTAの方々も松山市のいじめの取り組みをお知りになりたいということで、今年の8月には教育長、事務局、担当指導主事等々との話し合いも行い、話し合いを踏まえて臨時の会長会の中で報告をされました。また、平成19年にいじめ対応アクションプランをつくっております、この冊子は基本的には各学校の管理者、教務主任、指導主任という指導される方々の職階別に合わせた対応ということなんです、その中に保護者の皆様方へのお知らせという内容もあります。家庭でのいじめ発見チェックポイントもございますので、そういったことを今年のPTAの会長会の中で会長から報告をされまして、各学校、ご家庭のほうにこの分に関しましては配布をさせていただいております。いじめに関する取り組みに関してはできる手立ては市としてはとっていると思っておりますが、よく教育長も申しますが、どういふ手を講じてもいじめがなくなることはない、なくなることはないんですが、市長申しましたように、初期の対応が大事だということでこのような手立てを講じまして、なるべく小さいうちにいじめの芽を摘み取る。「咲かせよう笑顔の花、摘み取ろういじめの芽」ということでなるべく早い段階で取り組むことでやっております、現状としていじめに関する条例をつくることは考えていないんですけど、今年9月議会で松山市自殺対策基本条例が松山市においては制定されました。第4条で学校教育機関の職務として「子どもたちが命の尊さを理解し」という文面もございますので、事業を通じて命の大切さ、いじめをしない

ことの大事さということも各学習機関の中で教えていこうと取り組んでおりますので、ご理解をいただければと思います。

【市長】 数字を申し上げますと、松山市の平成23年度のいじめの認知件数は小中学校合わせて417件になっています。これは、前田課長からも言いましたけれど、小さいいじめの芽もいじめとして早期に対応していこう、学校の先生方は大津のときにもよく報道されましたけども、悪いことはできるだけ出たくないということでゼロにしよう、でもそのゼロというのは本当はいけないことで、隠ぺいしてるんじゃないかそういうような方向もあります。ですので例えば冷やかしても件数の中に入れる、からかいも入れる、悪口も入れる、仲間外れも入れるということでの417件です。隠すほうじゃなくて明らかにする、それを対応していくという形でやっておりますので、そういう417件だと認識していただければと思います。実は私も清水小学校を出て、中学校は父親の仕事の関係で伊予三島に行きました。まったく知らないところですが、小っちゃい中学校です。転校生なんかめったに来ません、いじめられました。松山帰れ、松山帰れ。松山帰れないですよ、親が来てるんだから。本当にいじめられましたけど、そういうつらい目をしないように手を打っていきたいと思います。

【男性】 交通安全の対策になろうと思うんですが1カ月くらい前に伊台から湯山に向いて、中央線が薄くなったんで中央線をきれいにしてたんですが、ちょうど久米線と国道の4差路の信号のところ横断歩道が薄くなっている、交通量が増えまして。そこは児童の通学路になっとるんですけど、非常に薄いんですけど、非常に危険な状態かなと。薄いんで、早急に横断歩道何かをしていただきたいと思うんですけど。

【都市政策課長】 横断歩道の設置につきましては、警察の所管でございます。市のほうであればすぐにできるんですけど、警察のほうにお願いしていただければとは思いますが、私のほうからこういうお話がありましたということはお伝えさせていただきます。

【市長】 横断歩道は全部警察。市道だろうが、県道だろうが、国道だろうが全部。今の件ですけど、縦割り行政というのではなくて、例えば国道は確かに国が管理をしています。県道は県が管理をしています。市道は市が管理しています。でもぱっと道路見て国道、県道、市道書いてないですからわからないですよ、

わからなくても市役所に言ってください、そしたら国道なんですよ、県道なんですよ、でそこで突っぱねません。もし私たちに言っていただいたら、我々のほうから国に言うこともできますし、県に言うこともできますし、警察に言うこともできます。ただ、直接言っていただいたほうがどこまでしてほしいのかが伝わりやすいんです。例えば、そこまで大きいことを言ってるんじゃないというケースもありますよね、そういう場合には直接言っていただいたほうが伝わりやすい面がありますので、縦割り行政というのではなくて、直接言っていただくのがよろしいかと思います。我々からも警察のほうにこういう意見が出ましたよというのを伝えましょう。

先ほどの農林水産物のPRのことで言い忘れがありますので農林水産物のPRのことで自転車教育のことについてお話をさせてください。農林水産物のPRで1つ忘れてましたのが今年、特に松山のことが全国のテレビで多く放送されるようになってきてます。なぜかというと私が就任して4カ月後に最初の市役所の機構改革があったんですけど、そこで都市ブランド戦略課をつくりました。なんでかということこれまで観光は観光、企業誘致は企業誘致、で農林水産物ブランドは農林水産物。各課が一生懸命やって来てたんですけども統括がいなかった。だから戦略持ってやろうっていうことでやり出しました。テレビで、地域から情報発信するのも大事なんですけど首都圏、関東から全国に情報発信してもらおうとこれは絶大な効果があります。どうやったら取り上げていただけるかは、私はそういう仕事をしておりましたので、こうやって言うと取り上げてもらいやすいっていうのはよく知ってます。私は持ち味ですから、松山を元気にするためにはやらないといけません。今すごく全国の放送で、松山が取り上げられる機会が増えてます。これはあまりお金が要らなくて絶大な効果をもたらすもので、例えば去年の旅サラダという番組で神田正輝さんが紅まどんなを食べて、これはうまいって言った瞬間に電話が殺到して、もうご注文に応じられないっていう状況にもなりました。実はその紅まどんなの前に、遠くへ行きたいという番組で釣島とか興居島の紅まどんな生産農家が一生懸命つくってるのが出た。今、フジテレビ系めざましテレビとかでよく松山の食べ物が出てますけども、そういうふうにならぬとのお金で絶大な効果をもたらす、そういう情報発信もしております。自転車のことにいきます。例えば湯山の住宅地から坂下ってくる。結構高校生とか、そこだけ

に限らず平たん部でも、中学生とか高校生とか角をびゅって出てきますね。もう恐ろしいですね。やっぱり小さいころから自転車のマナーを身につけてもらうことが大事だと思ってます。そこで今年踏み込みましたのが、松山市で「こども自転車免許証」を発行することになりました。これは子どもたちにちっちゃいときから交通ルールを守ってほしいという願いなんです。最初、講習だけを受けた子にはブルーの普通の免許。小学校の運動場とか体育館で実地の練習をしてもらってちゃんと交通ルール守ってもらいますねって誓ってくれた子にはゴールドのシールを貼ってゴールド免許にしています。ちょっと子どもたちも喜ぶような仕組み。ただそれ発行するだけやったらいざれ捨てられてしまいますから、それに市有施設ですからアクアパレット、プールとか、大街道の自転車とめるとこを優待で割引しますよ言うたら捨てんのですね。こういう形でいろいろ工夫をしながら小さいころから子どもたちにマナーを守ってもらえるようなことをやっております。ちっさいころからマナーを守ってもらう。自転車でもおじいちゃんおばあちゃんとおぶつかったりしたら大けがになることもあるんだよというのをしっかりと伝えていきたいと思っています。そしてもう1つだけ、昨日から花園町通りで、もっと歩行者のところを広げましょう、自転車のところを広げましょうっていう社会実験11日間するんですが、始めました。これも自転車をもっと安全に、歩行者をもっと安全にということと関わります。皆さんも花園町通りを想像していただいたらと思うんですが、電車も複線です。二車線ずつの車道、イチョウ並木、副道、アーケード商店街という40メートルの松山市内で一番幅の広い通りです。交通量調査の結果で見ると一番多かったときに比べると半分以下に車の量は減ってます。ですから実際にデータとして二車線を一車線にしてもかまわない。ちゃんと左折右折には配慮した使い方をすることで社会実験をさせていただきました。これはもう1つ深い意味がありまして、松山は歩くのに、自転車に適したまちです。坂が何ぼでもあるまちじゃない。長崎とか神戸のように坂の多いまちではありません。自転車や歩く人に適したまちです。ちょうどまちの機能も市役所がある、銀行がある、大学がある、オフィスがある、まちの真ん中に集まっています。ばらばらだったらやっぱり自動車で行かないかん、でもこれから高齢化社会になると視力が落ちる、運動能力が落ちると免許の返上も考えないといけない。松山はバスや電車があるまちです。バスや電車がいないまちやったらこんな

まちづくりはできません。でも幸い松山はバスや電車のあるまちですので、もっと歩く人が快適に、自転車の人が快適に過ごせるようなまちにしていきたい。高齢化の向こうには少子、子どもさんの数が少ないっていうのがありますけども、例えばお子さんと手をつないでて、お子さん結構元気ですから手を放してしまっただけで自転車とぶつかった、そんなことではいかんですよね。高齢化社会になってきますから体の不自由な方も出てくるでしょう。そういう方が安全に歩けるようなまちにしていきたい。もう1つだけ、今さっき言ったように国において大借金を抱えている、地方に回ってくるお金は少ないだろう。そういう中でできるだけ医療費の適正化に努めていきたいんですね。皆さんにちょっとお願いですけども、一日一人3,000歩余分に歩いていただいたら、国全体においては2,700億円の医療費が削減できるというデータがあります。2,700億円削減できたらほかの事業にお金が使えらるんですよ。3,000歩、距離でいうたら2キロくらいです。朝1キロ、夕方1キロ歩いてもらったらそれで3,000歩はいけます。できるだけ歩いていただきたい。健康のためでもあるし、健康寿命を長くしたい、そして医療費の適正化をして回せるものはほかの事業に回していきたい、そんな思いで花園町の社会実験もやっております。交通ルールの話からまちづくりの話までになりましたけども、まちづくりっていうのは全部つながってますので、そういう思いでまちづくりをしております。長くなりました。

【男性】 先ほど自転車、歩行者の話が出ておりましたけど、この夏に通学路の点検をされたと思いますけど、その点検結果を踏まえて、どういう実施か対策をされていく予定なのかを教えてくださいたいと思います。

【生涯学習政策課長】 御存じのとおり、今年の夏に松山市においては国、県、警察等関係団体の方々、各学校から上がってまいりました通学路の危険箇所といわれるところについてすべて現場に行って実地で見えてまいりました。その結果といたしまして、最新情報としては291カ所。この291カ所のうち、既にそれぞれの関係機関で対応が完了したものが36カ所。そして149カ所が今後それぞれ対応していく予定となっているところ。残りの106カ所が検討中ということでこれは用地買収等伴うようなものの中にはございまして、難しいところもあるんですが、今の段階から諦めるってことではなくて今後解消に向けて検討をしていこうと。ちなみに湯山小学校から上がってきたところは、ちょうどこの中学

校から市之井手橋のほう向いて行くところが道が狭いけれども交通量が多いということが学校からの報告で上がってまいりまして、現状としては外側線及び減速マークを設置して通行車両における抑止効果を図っていこうと。それから学校においてもより安全な通学路がないかもう少しみんなで考えてみようということが報告として上がっております。

【市長】 それはもうできるだけ早く、できるものから早くです。例えば、雄郡のほうで国道56号沿いのところが交差点がわかりにくい。そういうところは例えばカラー舗装をして交差点があるんですよというのを明示するとか。よくあるのがですね、これちょっと道路整備で難しいところが、水路があるので水路にふたしてほしい、水路にふたしてもらおうと道幅が広がる。ふたしてほしいっていうのがあるんですけど、この場合は難しいところが2つあって、水路にふたをすると掃除ができん、詰まった場合困るっていう声があるのが1つ。水路にふたをしてしまった場合、道が広がってそこが抜け道になってかえってスピードが上がってしまうところがあるっていうところが難しき。またガードレールをつけてくれたらいいじゃないかというケースもあるんですけども、ガードレールをつけれる場所はいいんですけどつけちゃうと沿道の家車の出入りができなくなってしまうところもある。そういうところはガードレールの形ではできないとか、いろんなケースがあります。できるものはカラー舗装をするとか、例えば道を狭そうに見せて減速させるとか、やり方はいろいろあるので、できるものから早くしていきたいと思っております。それこそ国も県も松山市も、松山市の中でもいろんな課がありますが全部関わるところは参加して、保護者の方にも参加してもらって暑い中汗流しもってやったことですのであれを無駄にする気はありません。できるものから早く改善していきたいと思っております。

【男性】 すいません、今の関連ですけれども回答は小学校のことだけだったんですけども、私も見守りなんかしてですねできる限りやっとりましますけども、中学校の通学路というのが大変危険なところが1カ所あるんですけど、それは点検されていないですか。それとその後の道路課の対策をお聞きしたいんですけども。

【生涯学習政策課長】 今年の夏に行いました合同の一斉点検というのは小学校の通学路の点検ということで行いました。通学路の定義としては中学校の通学路という定義がないんですけども、おっしゃられるような危険なところがあるよっ

という部分がございましたら学校のほうに申し出していただいて学校のほうから教育委員会に連絡ありましたら内容として対応はいたします。

【市長】 私たちは、8時半になったらすぐ帰るわけではありません。今、そういう場所があるって伺いましたので、早速地図がありますのでそれに記させてください。1つ追加をさせていただくと石井東モデル校をつくって、子ども目線の交通安全マップづくりっていうのを今年からやり始めてます。これは金沢の三国さんっていう60歳くらいの女性、この方大変有名な方、子どもの安全で全国に知られるようになった方ですけども、子ども目線の交通安全マップっていうのは大人に地図渡してどこが危ないですかってすると、大人の意見だけになっちゃって子どもの意見がかき消されてしまうんです。ですから子どもにも一枚一枚渡してどこが危険っていう取り組みをしたので有名な方です。それいただいて松山でも子ども目線の交通安全マップづくりをやり始めることにしました。今回モデル校が石井東ですけども、これでノウハウができますから来年は全校でこの子ども目線の交通安全マップづくりをしようと思ってます。ハード、ソフト両面でよりよい安全なものにしていこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。また8時半の段階で道路の専門家ですので都市政策課長が承ります。

【男性】 歩道と車道の境目、あそここのところが車いすの人がものすごく困ってるんですよ。あれ工事はしたけれども確認してないんでね、車から見てこれで大丈夫いうだけでその実際に車いすを転がしてやってないんでしょう。

【市長】 場所どこでしょう。どこも。

【男性】 あの段差をなくしたでしょう。歩道と車道の段差。あそここのところが全部そうなんです。工事だけやってこれでよしいうことで後の確認はしてないですよ。

【都市政策課長】 歩道と車道の段差というのは一定の基準があるわけですし、通常2センチとか。例えば視覚障がい者にとれば段差が必要だということで、逆にフラットな状態、段差がない場合に歩道と車道の境がわからないとかいろいろ関係で、今現在は2センチの段をとりなさいという基準になっております。

【男性】 車道と歩道の段差のところに車輪が挟まって動けない。

【市長】 申し訳ないんですが例えばどこことかって近所にありますか、この帰り

とかもしよかったら見せてもらいましょうよ、この後。ちょっと御足労なんですがこの後終わりましたら一緒にそこ見せてもらえませんかね。より把握ができますのでお願いいたします。実は、道後の道後温泉周辺きれいになってますけど、車いすの方にも実際に動いてもらって、この舗装でいいんですかっていうテストはしてるんだそうです。かなりの距離が道路ありますので、当然至っていないところもあると思うんですけれども、そういうところもあるということです。またこの後把握をさせていただきますのでよろしくお願いします。

【男性】 小中学生の通学路について、私住居が湯の山なんですけど、斜行エレベーター下りたところの交差点、片一方が生徒がずっと帰ってきて途中までは2列ですが中間ぐらいから歩道が狭くなって1列になる。そこの歩道を渡るところが1車線ですから中学生が自転車で来るとそこがあふれて、特に今、平井線ができて交通量がものすごい増えてるんです、伊台に向かって。あれがものすごい伊台のほう交差して末の交差点、右折できない。1台か2台くらいしか行けんのですよ、朝晩は。そういう状態で車両がものすごい増えて危ないんです。交差点の片一方をなんとか拡張できるか、交差点の対策をひとつやってもらえたら、児童の交通安全でひとつよろしく。私も児童の見守りで毎月出とりますから。これ県道の40号線ですからね。

【都市政策課長】 県道ですから後ほどお話具体的にお聞きして、持ち帰らせていただきますので、よろしくお願いします。

【市長】 やっぱあそこの団地ですから子ども多いんですよ、小学生とか中学生とか。わかりました。小中学生、私の子どもたちというスタンスで県に持っていきましょうか。

【女性】 今さっきから通学路のことで皆さんおっしゃられてるんですけど、擁壁とかあってその上に山を切り開いているので、擁壁の上が山林とかになってるんですけど、枝とかそこから岩とか石ころとか落ちてくるんですけど、それってというのはいったいどこに言っていったらいいんですか。

【市長】 これは確かにわからないですね、どこに言っていったらいいんですか。擁壁があってコンクリがあつて、その上に山があつてゴロゴロ落ちてくることあるかもしれませんね。確かにどこに言っていったらいいんだろうって思いますね。どの辺ですか。後で地図をお見せしますので、指さしていただいたらどこら

かわかると思います。皆様方にも1カ月後には回答が渡りますので、そこでどこだったんだってというのがわかると思います。

ちょうど時間となりまして、皆さんも遠慮されたのか手も挙がらなくなりましたので、今日のタウンミーティングは終了ということにさせていただきますが、どうしても手挙げにくかったとかいらっしゃいましたら、はがきでもインターネットのメールでも結構です、松山市は市長へのわがまちメールというのがあります、市長に直接届くメールがございますのでどうぞ活用していただいて、はがきなどでも結構ですので声を寄せていただいたらと思います。市役所といたしますが、私が思いますのは、市民の皆さんの役に立つところで市役所でなければいけないと思いますので、どうぞ言っていたら案外解決できることもありますので、市役所ってそんな敷居の高いところじゃないですから、市民の皆さんの役に立つところで市役所でないといけないと思ってますので、どうぞおっしゃってください。また、対応が「ちょっとおかたいんじゃないの」とかありましたら、それも私のところにメールで寄せていただきましたら、職員に対してフィードバック、そういうこともできますので、どうぞおっしゃっていただきたいと思います。途中でご説明いたしましたように、どこの地方自治体も厳しい財政状況であることは変わりありません。でも皆さんから声をいただかないと、行政として何をすべきなのかっていう政策判断が誤ってしまいます。そういうことのないようにこれからも出続けていきたい、皆さんの声に耳を傾けてまいりたい、地域に出かけていきたい、地域第一という気持ちでありますのでこれからも声を寄せていただいたらと思います。そして「我々はこう思います、我々の対応はこうです、こっちのほうがいいんじゃないの」、こういう形で一步一步上がっていくようなそういうまちづくりができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。今日は大分寒くなってまいりました、寒い中ですけれどもどうぞ皆さんお帰り気をつけて、そしてお風邪などお召しにならぬようにお気をつけになってください。これでタウンミーティング終了とさせていただきます、ありがとうございました。

— 了 —